

■ iCATをお知りになったきっかけは何でしょうか？

かなり昔です。2005年にJIADSでiCATの十河先生が講演されて、それを聞いたのが最初でした。インプラントのシミュレーションソフトは他社の話も聞きに行っていたのですが、十河先生のお話を聞くとすごくユーザー目線に立った開発をされているなと思いました。導入費用も安く、安全確実にするには必要と思い、使いはじめました。あの時の話のインパクトは大きかったですよ。「5億円ではなく、5円置く」みたいな話もされてましたけど・・・(笑)。

■ ずっとお使いいただいている理由を教えてくださいませんか？

LANDmarker Directが出たのが自分にとっては大きかったですね。利便性が上がったというか、自分のところでCTデータを変換できるようになったので、患者さんにインプラントの難易度を、具体的に説明することが簡単にできるようになりました。患者さんにも分かってもらいやすいんです。こんな値段で出してiCAT大丈夫かなと思いましたが(笑)。

そして、そろそろ院内をデジタル化しようと思いはじめていたときにiCATがCTを販売しだして、なんか僕のやりたいことの展開とiCATの商品展開のスピードが一緒なんですよね(笑)。

■ 歯科用CT「RevoluX」も発売当初にご導入いただきました。他社も検討されていたと思いますが、決め手は何だったんでしょうか？

使い慣れたLANDmarkerでそのまま診断できるということが大きかったですね。iCATの製品は使い勝手がよく考えられているし、CTについては昔から十河先生の講演を聞いていたのでRevoluXなら間違いないだろうと導入に不安もありませんでした。もちろん実際に撮影した画像を見て決断しましたが、実はあんまり他との比較は考えていなかったんです。他の歯科用CTでは撮影範囲が狭いものもあるようですが、全顎を撮影することによって高度な診断ができるのがCTの最大の利点だと思っていますので、一度に全顎撮影



できる機種しか念頭にありませんでした。

■ ご導入から4か月になりますが、実際使われていかがでしょうか？

LANDmarkerでインプラントの診断だけをしていたころとはCTの使い方が違いますね。前は目的があってCTを撮っていました。今はもちろんそれもありますが、根尖の状態、歯根破折の有無、エンド、ペリオ、埋伏など全部見られるじゃないですか。説得力が違いますよね。いくら口で説明するよりも画像を見せると論より証拠で、それが院内でできるという効果は大きいです。

CTを撮影してわずか数分でチェアサイドで説明できて、患者さんも「おおっ、最新鋭ですね」みたいな反応もあって、プレゼンテーションの意味でも大きく向上しましたね。

■ 先生のご診断で変わったことは何かありますか？

ペリオの状態や、根尖病巣がよくわかるというのはすごいですよ。デンタルではわからなかったものが見えるんですから。ペリオ、エンドの診断では有効ですね。

■ 今後のiCATに望まれることは？

自分がこういう風にできたらなあと考えていることを実現してくれるので、これからもそれをさらに続けてほしいですね。先生によっていろんな使い方があると思うんですけど柔軟性を持って対応して欲しいと思います。

本日はお忙しいところお時間を頂戴しましてありがとうございました。

